特集 | これからの公共空間

私たちの身の回りには、公園や水辺、道、交通ターミナル、学校、スポーツ・文化施設など多くの公共空間があり、目的があってその場所を訪れる人やたまたま通りかかった人など、様々な人々によって多様な使い方がされています。

公共空間を構成する公共施設の多くは、高齢化や共働き家庭の増加に伴い必要とされる機能が変化している状況下にあって、老朽化・陳腐化が進み更新時期を迎えています。

さらには、東京パラリンピック大会を契機に、障がいの有無にかかわらず、個性や能力を発揮できる共生社会の実現についての関心も高まっており、すべての人がともに快適に使える公共施設への転換が強く求められてきています。

このような中、次世代に負担を残さず、地域における良好な環境や地域の価値を維持・向上させるために、行政だけでなく民間のノウハウや創意工夫を積極的に活用し、行政と民間事業者が協働で公共サービスを提供する公民連携による公共施設整備、ひいては公共空間づくりの新しい動きに注目が集まっています。

また、新型コロナウイルスの感染拡大で屋内施設の閉鎖が続いた期間は、親子連れを中心にたくさんの人が公園に行ったように、居心地のいいリアルな公共空間の重要性を再認識させられる機会でもありました。

本号では、「これからの公共空間」をテーマに、公園を中心とした公共空間の公民連携による新しい利活用・管理運営手法などに注目し、心地よい生活を支えるしなやかな社会の創造に寄与する公共空間のあり方について考えてみたいと思います。

まちづくりに寄与する公共空間のあり方や新しい公共空間のつくり方について、専門家の方々に解説いただくとともに、公園や水辺、スポーツ・文化施設などにおける魅力ある公共空間づくりについて、新たな手法による取組みの実践例を交えて紹介します。